

はじめに

イラストで音声言語と摂食嚥下をやさしく学び、
やさしい治療を進めよう！

ことばを話すこと、聞くことは人のコミュニケーションに、また口から食べて栄養や水分を補給することは命を維持するために、それぞれ大切な体の働きです。それゆえ音声言語や摂食嚥下に障害を有する患者さんは、生活のうえで大きなハンディキャップをもち、医療者や支援者の協力を得て、それらの障害を治療ないし克服することが望まれます。

音声言語障害や摂食嚥下障害の治療には、多くの職種が参画する学際的なアプローチが必要です。すなわち医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、臨床検査技師、介護福祉士、社会福祉士、等の方々が各々の専門性を活かし、また専門性を譲り合いながら患者さんにやさしい治療や支援を行います。超高齢社会を迎えた日本では障害をもつ方々は急増しており、多くの医療職種の方々、ならびにその職種を目指すその学生の方々に音声言語や摂食嚥下に関する共通の基本知識と治療法を理解していただくと、高齢者の健康寿命が延伸し、生き生きと暮らしていただけるようになると思います。

本書は各項目でQ & A形式を採用し、音声言語や摂食嚥下の診療で日本を代表するエキスパートの方々が執筆を担当しています。第1章は、音声障害、失語・高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害、聴覚障害に関する解剖、生理、疾病とその病理について、第2章では実際の臨床現場で行われる検査から治療について記しています。全編を通してイラストを多用した解説がなされ、初学者の方々にわかりやすく、また経験者の方々にも知識を再確認して整理しやすいテキストになりました。刊行にあたりご尽力いただきましたご執筆者ならび（株）Gakkenの方々に感謝を申し上げます。

本書をお手元においていただき時間をみて通読していただき、あるいは項目別にお読みいただき、音声言語、摂食嚥下の入門書または復習用の書物としてご活用いただければ幸いです。音声言語と摂食嚥下をやさしく学び、障害のある方々にやさしい治療を進めましょう。

2026年4月吉日

東北大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授
香取幸夫